

お猿騒動 12/10. 王子に姿を見せられた。

止めましよう!
テロも戦争も!

日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団
2017.12.14. NO.1528.
御相談はお気軽に
TEL/FAX とも 3905-0970
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」メガンティヤ近く)

好天に恵まれ、桐ヶ丘辣バザン 第41回

- 10日の日曜日。久しぶりに桐ヶ丘郷りが会場。実行委員会を聞きながら、バザー用品提供も多くさんいただき。
- おもち、こせ、三宅島の特産品など、楽しく、おいしく、ご協力ありがとうございました。



園サトルさんの憲法キルトに感動。

核兵器の終わりの始まりに

ノーベル平和賞授賞式



ノールベリ平和賞授賞式でサトルさんと園サトルさん(中央)と園サトルさん(右)が授賞式を受ける。ICAN事務局長(左)が授賞状を渡す。

- ノルウェーの首都オスロで12月10日、「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)のノーベル平和賞の授賞式がおこなわれました。
- 写真のように、広島を被

禁止条約すべての国で

ICAN事務局長とサーローさん演説

爆したサーロー節子さん(89歳)カナダ在住)がICANの事務局長とともにメダルを受けとり、スピーチしました。

お二人のスピーチの概要は、「みぶし赤旗」から引用し、2面に載せています。ごらん下さい。



2017/12/10

衆院で改憲勢力8割出し... 国会で多数を国民世論を揺り動かし、反対多数の状況をつくり出すことができれば、安倍首相の発議はできなくなる。最大のポイントは、戦争法(安保法制)があることで、「自衛隊の9条明記」の危険です。



13q(注) 池内さおり前衆院議員(左)と中祖「みぶし赤旗」政治部記者

北区地域包括ケア推進計画
北区高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画
(平成30年度～32年度)
(2018年度～2020年度)

4—公聴会が開催されました。
● さがら区議は12/2の滝野川会館に出席しました。各会場とも数員から40名ほどの参加。「地域包括ケアシステム」そのものがわかりにくいなどの意見も、1/5まで意見書提出。

→ 人形作家 園サトルさんの憲法キルト抄

■サーロー節子さんは、世界の人々に訴えた。

「私が愛した広島市の街は、一発の爆弾で完全に破壊された。住民のほとんどは一般市民で、焼かれて灰と化し、蒸発し、黒焦げの炭になった。……核兵器は必要悪ではなく絶対悪だ。……7月7日 禁止条約を採択。」

2017年 在朝の多数の国々は、

授賞式講演要旨

サーロー節子さん

2017.12.12 神戸市立中央図書館

ノーベル平和賞授賞式でサーロー節子さんの演説に終立ちになって拍手を送る人たち 11月10日、オスロ



< 鎮 > 広島原爆ドームの近くにある広島県原爆被害者団体協議会の事務所。左はオスロ出発前、被爆二世の佐々岡邦彦理事長。中央は被爆体験と語る志岡氏ら

【オスロ一時事】ノーベル平和賞授賞式でのサーロー節子さんの講演要旨は次の通り。

広島と長崎の原爆投下から奇跡的に生き延びた被爆者の一人としてお話しする。この会場で、広島と長崎で亡くなったすべての人々の存在を感じてほしい。彼らの死を無駄にしてはならない。

米国が最初の原爆を私が住む広島に落とした朝のことを鮮明に覚えている。私が愛した街は一発の爆弾で完全に破壊された。住民のほとんどは一般市民で、焼かれて灰と化し、蒸発し、黒焦げの炭になった。この時亡くなった4歳のおい、英治は私にとって世界で核兵器によって脅かされているすべての罪のない子どもたちを代表している。

私たち被爆者は、この世に終わりをもたらす核兵器について世界に警告せねばならないと確信し、繰り返して証言をしてきた。しかし、広島と長崎の残虐行為を戦争犯罪と認めない人たちがいる。核兵器は必要悪ではなく絶対悪だ。

今年7月7日、世界の圧倒的多数の国々が核兵器禁止条約を採択した時、私は喜びで感極まった。かつて人類の最悪の時を自撃した私は、この日、人類の最良の時を自撃した。これを、核兵器の終わりの始まりに



しよう。

核保有国の政府や「核の傘」の下で共犯者となっている国々の政府に言いたい。私たちの証言を聞き、私たちの警告を心に留めよ。世界のすべての国の大統領、首相に対し、条約に参加し、核による絶滅の脅威を永遠に除去するよう懇願する。

私は13歳の少女だった時、くすぶるがれきに埋もれながら、光に向かって動き続けた。そして生き残った。今、私たちの光は核兵器禁止条約だ。

ICAN

フィン事務局長

【オスロ一時事】ノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」のベアトリス・フィン事務局長の講演要旨は次の通り。われわれは核兵器をこの世界に定着したものととして受け入れることを拒否し、自分たちの運命が数行の核兵器発射コードによって縛られていることを拒否する人々を代表している。われわれの選択こそが唯一、可能な現実だ。他の選択肢は、考慮に値しない。

核兵器の物語には、終わりがあがる。どのような終わりを迎えるかは、われわれ次第だ。核兵器の終わるか、それとも、われわれの終わりが。

今日、核兵器が使われる危険性は冷戦が終わった時よりも大きい。世界にはより多くの核武装国があり、テロリストもいれば、サイバー戦争もある。すべてがわれわれの安全を脅かしている。

イラクやイラン、カシミール、北朝鮮で、核兵器の存在が、核競争への参加をおおっている。核兵器は紛争を生み出している。

核兵器禁止条約は、世界的な危機の時において、未来への道筋を示している。暗い時代の一筋の光だ。すべての国に条約への参加を求めよう。

核兵器の傘の下に守られていると信じている国々に問う。あなたたちは、自国の破壊と、自らの名の下で他国を破壊することの共犯者となるのか。すべての国に対し、われわれの終わりはなく、核兵器の終わりを選ぶよう呼び掛ける。

化学兵器、生物兵器、クラスター爆弾や対地雷と同様、核兵器は今や違法となった。その存在は非道徳だ。その廃絶は、われわれの手の中にある。

●私たちが日本共産党北沢議員団は、12月5日、広島を訪れ、被爆者の方から、核兵器禁止条約が採択された国際的な意義についてお聞きました。●そして、日本政府が一刻も早く条約に署名するよう求めていきます。